



自殺を予防するための具体的な取組みが確定

3月は自殺予防強化月間です。そこで、今月号では「自殺予防対策委員会」を取り上げます。右ページの課題を踏まえ、委員会が結論づけた解決のための具体的な取組みを紹介します。33ページにも、自殺に関する相談窓口などを掲載しています。

その他の対策委員会についても、具体的な取組みが決定した広報紙などでご紹介します。

自殺予防の課題

「40～60代の男性の自殺が多い」「自殺に関する情報が少ない」「自殺に至る実情がわからない」



課題解決のための具体的な取組み

- ① 標語などによる啓発活動
- ② うつ病チェックリストの普及
- ③ ゲートキーパー（※）の養成

※自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができ、「命の門番」と位置付けられる人。

① 中学生に自殺予防の標語を募集しました

教育委員会と連携し、市内中学1年生から自殺予防をテーマとした標語を募集しました。集まった「自殺予防標語」309作品の中から優秀作品に選ばれた3作品を紹介します。



ちょっとまで生きる喜び
悩まずに気軽に話してその思い
だいじょうぶ理解する人
きつといふ
(小津中1年)
(東陽中1年)

② チェックリストの普及をしていきます

自殺を選ぶ人の中には、うつ病などの精神疾患にかかり、生きる意欲を失ったケースが多く見られます。そこで、自殺予防対策委員会では厚労省が作成した以下のリストの普及・啓発をしていきます。

✓ うつ病チェックリスト ～ちゃんと眠れていますか？～

長く続く不眠は「うつ」のサインかもしれません。下記のチェック項目に2つ以上当てはまり、2週間以上続いたら医療機関の受診を！

- 毎日の生活に充実感がない
- これまで楽しんでやっていたことが楽しめなくなった
- 以前は楽にできていたことが、いまではおっくうに感じられる
- 自分が役に立つ人間だと思えない
- わけもなく疲れたように感じる

（厚生労働省「うつ病対策マニュアル」）

③ ゲートキーパー養成講座を開催しませんか



ゲートキーパー（GK）の養成を推進するため、GKの証となる缶バッジ（左デザイン）を作成しました。GK養成講座を受講した人を対象にバッジを配付したいと考えていますので、開催される人は自殺予防対策委員会事務局（生活福祉課）へご連絡ください。また、寄せられた講座の情報（一般参加の可否など）は事務局でとりまとめていますので、受講希望者はお問い合わせください。



本市は国際認証制度であるセーフコミュニティ認証の取得を目指しています。

セーフコミュニティいすみおおつ

本市が抱える課題が見えました いよいよ具体的な取組の検討段階

セーフ コミュニティ いすみおおつ の仕組み

セーフコミュニティとは、主観的な意見とデータを組み合わせることで重点課題を導き出し、取組対象・方法を決定し、実践することによってどう変化したかを検証する仕組みができているコミュニティのことを言います。

重点課題の決定



具体的な取組みの決定・実践

検証

この流れで、安全・安心な泉大津を作っています。



6つの対策委員会が議論を経てたどり着いた

泉大津市が抱える課題

交通安全 対策委員会

- 自転車事故が多い
- 交通ルール・マナーが守られていない
- 特定の環境での事故が多い

子どもの安全 対策委員会

- 交通事故が多い
- 一般事故（けが）が多い
- スマホによるトラブルが多い

高齢者の安全 対策委員会

- 転倒が多い
- 交通事故が多い
- 認知症

自殺予防 対策委員会

- 40～60代の男性の自殺が多い
- 自殺に関する情報が少ない
- 自殺に至る実情がわからない

犯罪防止 対策委員会

- 防犯活動に取り組んでいる人が少ない
- 夜道が危険
- 自転車盗などの街頭犯罪が多い

災害安全 対策委員会

- 地域連携が弱い
- 災害への備えが少ない
- 防災意識が低い

次は、課題解決のための方法を考える段階です！

